

たばことあかちゃん健康

妊娠中にたばこを吸っていないのにお腹の中にいる赤ちゃんにたばこの影響があるの？と思われるかもしれませんが、実は妊婦さんの喫煙だけが赤ちゃんの健康に影響を及ぼすわけではありません。妊婦さんの周囲の方が喫煙し、その煙を妊婦さんが吸い込む「受動喫煙」は妊婦さんにもお腹の中の赤ちゃんにも健康に良くないことがわかっています。



受動喫煙防止
シンボルマーク

※受動喫煙とは、「室内または、これに準ずる場所において、他人のたばこの煙を吸わされること」と定義されています。（健康増進法第25条）

たばこの有害物質は、喫煙者本人が吸い込む煙（主流煙）よりもたばこの先端から立ちのぼる煙（副流煙）の方に多く含まれています。



副流煙の有害性（三大有害物質）

物質名	性質	主流煙に対する副流煙の含有量
ニコチン	有害物質（血流を悪化）	2.8倍
タール	発がん物質	3.4倍
一酸化炭素	有害物質（酸素不足を招く）	4.7倍

出典：U.S.Department of Health, Education and Welfare(1975),厚生労働省(2002)などにより

受動喫煙による代表的な健康被害



受動喫煙は、科学的根拠をもって多様な健康被害を引き起こすことがわかっています。

胎児*	子ども	成人
低出生体重児、早産、乳幼児 突然死症候群（SIDS） *妊婦が非喫煙者の場合	中耳炎、呼吸器系症状、肺機能低下、乳幼児突然死症候群（SIDS）、下気道疾患（気管支炎・肺炎など）、脳腫瘍、リンパ腫、喘息、白血病	肺がん、虚血性心疾患、鼻刺激、脳卒中、副鼻腔がん、乳がん、アテローム性動脈硬化症、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、慢性呼吸器症状、喘息、肺機能低下

出典：U.S.Department of Health and Human Services(2006)

サードハンドスモーク（三次喫煙）をご存じですか？

サードハンドスモークとは、たばこの火が消えた後、衣服や身体、部屋の壁紙やクッション、カーテンなどに付着した、たばこの残留化学物質が揮発することにより、健康被害を引き起こす新しい概念です。



たばこの煙も、たばこのにおいもやめてほしいなあ！

赤ちゃんを迎える周囲のみなさんが禁煙することで
妊婦さんや赤ちゃんの健康だけではなく
ご家族の健康も守りませんか。

～若い女性の子宮が危ない・・・～

20歳代後半以降の若い女性に《子宮頸がん》が増加しています。
子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルスというウイルスがセックスによって子宮の入り口に継続的に感染することで発症しますが、【がん】になるまでには長い年月が必要です。定期的に検診や診察を受けることで、少しの細胞の変化（異形成等）を早く見つけて、がんを早期に発見・治療することができます。

通常、妊娠初期に子宮頸がん検診を受けますが、
出産後も継続的に1年に1回は子宮頸がん検診を受けましょう。
今おなかにいる赤ちゃんをお母さんが元気に育児できるように
そして、次の赤ちゃんを妊娠・出産できるように
毎年検診を受けて、あなた自身であなたの子宮を守りましょう。

